

**第8回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（エコエリアやまがた推進協議会長賞）**
※掲載している情報は平成25年度時点のものです。

名 称	最上町堆肥散布組合
所在地	最上町

1. 取組の背景・経過等

最上町は、夏期冷涼な中山間地域でやませの影響を受けやすく、幾度となく冷害に見舞われ農作物が被害を受けてきた。そこで、農業経営安定のために適地適作であるアスパラガスを振興し稲作依存型農業からの脱却を目指すとともに、土づくりに重点を置くことで食味、安心安全といった点で他地域との差別化を図る取組みを町全体で行い、平成16年度に最上町アスパラガス生産協議会が組織され、本格的な栽培が始められた。

しかしながら、土づくりの点においては莫大な量の堆肥が必要となり、堆肥の準備及び散布が一農家では対応困難であり大きな課題となった。供給元として従前から町で盛んであった畜産業関係者が期待されたものの、副産物である家畜排せつ物を堆肥化し流通させる処理手法が確立されておらず、畜産農家の大きな悩みでもあった。

そこで、双方の課題を解消し、耕畜連携を推進する目的で平成16年度に最上町堆肥散布組合は組織された。

最上町のアスパラガス栽培は元肥として堆肥を（30t/10a）施用し、その後も毎年（5t/10a）の追肥を行い、継続的に堆肥供給を実施する点が特徴的であるが、堆肥マルチによる抑草効果・除草剤の削減が図られ減肥減農薬に大きく寄与している。

また、当組合が供給だけでなく散布も担うことで、農家の負担軽減にも貢献している。

現在は町内の畜産農家19戸から構成され、構成員は肥育牛、繁殖牛、乳牛約2,000頭を飼育し、年間約4,000tの堆肥を供給している。散布に関しては、当組合の青年部（畜産農家の後継者）が担っている。

また、近年は、ニラ、ニンニク及びび Lindou といった園芸作物への堆肥供給、散布も行っており、園芸作物振興に大きく貢献している。

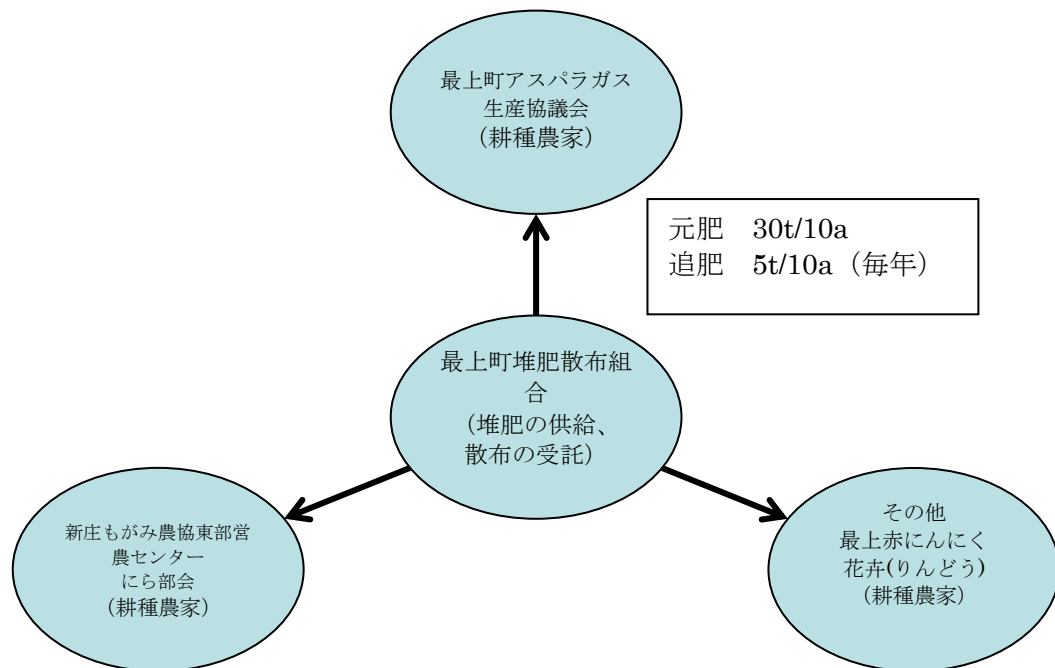


堆肥散布を一手に引き受ける堆肥散布組合青年部

これまでの堆肥供給・散布実績

品目	年度	堆肥供給量 (t)	堆肥散布面積 (ha)
アスパラガス	平成 16 年度	2,340	7.8
	平成 17 年度	2,790	8.0
	平成 18 年度	2,650	6.2
	平成 19 年度	2,660	5.2
	平成 20 年度	3,340	6.6
	平成 21 年度	2,770	3.6
	平成 22 年度	2,770	3.0
	平成 23 年度	3,010	3.3
	平成 24 年度	4,229	3.9
にら	平成 23 年度	100	0.7
	平成 24 年度	30	0.3
にんにく	平成 24 年度	66	0.7
りんどう	平成 24 年度	30	0.3

最上町堆肥散布組合と関係団体の連携体制



2. 技術・経営・取組姿勢

(1) 環境に配慮した農業技術の実践と工夫

最上町の園芸作物に堆肥を供給する事により、減肥減農薬に大きく寄与している。特に当該堆肥を用いることでアスパラガス及びニラ栽培者は、全員エコファーマーを取得し、安心安全な作物栽培を目指している。

(2) 資源循環(家畜排せつ物、稲わら等)地域資源の活用に対する取組の実践と工夫

畜産農家の大きな悩みであった家畜排せつ物の処理については、畜産農家とともに堆肥化を進め、また当組合が堆肥散布を担うようになってからは、堆肥の供給量が大きく伸び、地域の有機質資源の有効活用が図られている。

(3) 温室効果ガスの排出抑制、自然エネルギーの活用、生物多様性保全等への取組の実践と工夫

家畜排せつ物を堆肥化することで環境への負荷を軽減するとともに、炭素貯留効果の高い堆肥を適正に散布することで、温室効果ガスの排出抑制が図られている。

(4) 耕畜連携・飼料自給率の向上等への取組の実践と工夫

耕畜を橋渡しする「堆肥散布」を担うことで、畜産農家においては家畜排せつ物の有効利用、耕種農家においては土づくりによる作物の安定生産と品質向上が図られるなど、お互いの利点を共有しあう密接な連携が構築されている。

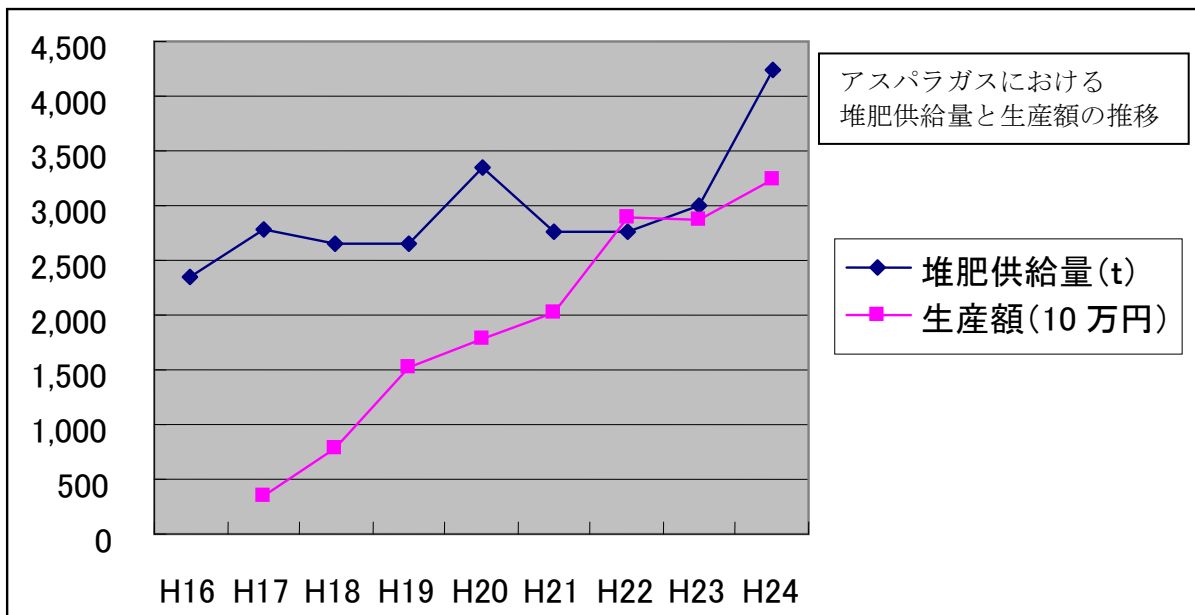
(5) 持続的な環境保全型農業の実践と経営確立

堆肥散布を担うことで地域的な環境保全型農業の機運が高まり、それに伴い堆肥散布の受託面積が拡大しており、組合としての経営が確立している。

(6) 新たな知見(先進的な環境保全型農法等)と情報の収集(農業者等の交流、研究活動等)

散布対象の作物に適した堆肥を供給するため、最上総合支庁農業技術普及課等から講師を招聘のうえ堆肥づくりの勉強会を定期的で開催し、使用する農家の要望に応えられる堆肥づくりを目指している。

また、アスパラガス栽培者やニラ栽培者との、園芸振興の発展及び良質な堆肥供給について意見交換の場を設けお互いに切磋琢磨している。



3. 周辺等への影響力・普及力

(1) 創造性・地域的な影響力

当組合の発足以来継続して堆肥供給を行ってきたアスパラガスは、堆肥供給量と比例する形で作付面積、生産量及び生産額が増加しており、安定的な堆肥供給が産地拡大の大きな要因となっている。

(2) 消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じた消費者等の環境保全型農業に対する理解と関心を増進する活動の実践

(3) 地域の農業資源の保全と活性化への取組の実践

平成23年度からニラ、平成24年度からはニンニク及びリンドウの作付地にも堆肥供給を行っており、各作物の安定的な収量確保の一助となることで農業者が積極的に園芸作物への転作に取り組める環境を醸成し、地域の活性化を促している。

(4) 実需者等との連携を通じた地場農産物の利用拡大、安全・安心への取組の実践

元肥の供給だけでなく毎年追肥も行っていることにより、化学肥料の低減に寄与するとともに、堆肥マルチとして供給することで抑草効果による除草剤の削減も図られ、減肥減農薬の実践に貢献している。

4. その他特記事項

5. 取組の成果と展望

区分 年度	農家戸数 (戸)	栽培面積 (ha)	出荷数量 (t)	単価 (円/kg)	販売金額 (円)
平成17年	68	16	60.8	573	34,720,617
平成18年	78	22	87.4	893	78,134,408
平成19年	85	28	182.3	838	151,471,081
平成20年	95	33	209.9	844	177,231,113
平成21年	100	38	242.8	830	201,542,947
平成22年	103	40	341.1	848	289,152,000
平成23年	105	43	299.5	958	286,799,000
平成24年	111	47.6	360.2	899	323,778,000

最上町のアスパラガスの生産推移

上記表にあるように、平成24年において栽培面積47.6ha、生産量360t、販売金額3億2千万円と、念願であったアスパラガス販売額3億円を突破した。

ここまでアスパラガス生産額が急激な伸びを示したのは、ふんだんに堆肥を使用していることが大きく影響している。10aあたり30tの堆肥というのは相当な量になり、1農家が個人で散布するのはかなり厳しい。しかし散布を担う最上町堆肥散布組合がある事によりアスパラガス栽培へと取り組める農家が増えた事はまぎれもない事実である。

また、アスパラガスの他にも、平成23年度からニラ、平成24年度からりんどう及びにんにくにも堆肥供給を開始しており、最上町における耕畜連携の体制は拡がりをみせている。

今後、これらの園芸作物はもとより、農地の大半を占める稲作への堆肥供給及び散布を行えるように組織の拡大を進め、環境保全型農業へと大きく寄与する活動を行っていきたいと考える。